

5 . 実現に向けた今後の進め方

防災まちづくりは、たいへん時間のかかる息の長い取り組みである。むしろ、永遠に続くと言った方が良いかもしれない。

阿佐谷・高円寺防災まちづくり協議会は、この基本構想の提出をもってその役割を終える。しかし、防災まちづくりは今ようやく始まったばかりであり、協議会メンバーはこれからも、それぞれができる範囲で、この地域のまちづくりに関わり続けたいと考えている。

1 - 現協議会員の要望

本まちづくり協議会はここで一旦解散となるが、我々協議会員は、この基本構想がどのように受け止められ、施策に反映されていくかということに強い関心を持っている。

本構想は今後、区内部で行政の立場からの検討され、防災まちづくりの計画としてとりまとめられる予定であるが、その検討過程や案が作成された段階で、現メンバーに対して十分な説明がなされ、それに対してメンバーが意見を述べる機会が与えられることを強く要望する。

また当然のことながら、本地域に住む全住民に対しても、説明会やニュース等を通じて十分な情報が提供され、意見のやりとりがなされることを強く望むものである。

2 - 今後の協議会活動について

協議会での議論では、まちづくりに関心を持つ有志が集まり、地域や地区のことについて考えていくまちづくり協議会的な機能は、今後も是非残していくべきであるという意見が多かった。今後、組織を再編しながら、まちづくり協議会を続けていくとすれば、その役割や活動内容としては次のようなものが考えられる。

まちづくり協議会の機能は残していくべき

(考えられる役割・活動内容)

地元の情報や要望を吸い上げ、行政に伝達

計画実施上の評価と提言

- ・区は5年毎に、計画実施状況を公表

- ・協議会はそれを踏まえて調査・検討・評価し、必要に応じて修正・補充案を区に提言する

計画実施段階への関与

- ・例えば、公園や緑道の整備計画づくりへの参加など

独自のまちづくり活動の展開

- ・勉強会の継続

- ・出張協議会などの普及活動

- ・防災訓練や主要な道路や緑道に名称を付けるイベントなどの開催

- ・住民の間に入り、意見をまとめるコーディネート役

また、まちづくり協議会の活動を継続していくにあたっては、次の点が重要である。

協議会活動の継続にあたって重要なこと

より多くの住民の参加を目指すこと

- ・新協議会を設立する際に、上記のような具体的な活動内容も併せて伝え、住民の関心を引きつけるようにする
- ・ケーブルテレビや新聞などを使って募集・PRする
- ・途中からでも入りやすい開かれた会の運営を心掛ける

既存の防災関連組織との連携を深めること

区からの活動支援と、区との密接な関係を継続させること